

日本外交文書

昭和期Ⅱ第二部第四卷
(昭和十年対欧米・国際関係)

外務省

序

外務省では、明治維新以降の我が国外交の経緯を明らかにし、あわせて外交交渉上の先例ともなりうる基本的史料を提供する目的で、昭和十一年『日本外交文書』第一巻を公刊し、既に、明治・大正期の刊行を終えている。

昭和期についても、満州事変、海軍軍縮問題、および日米交渉（昭和十六年）等の特集とともに、昭和期Ⅰ（昭和二―六年）の外務省記録の編纂・刊行を終え、現在昭和期Ⅱ（昭和六―十二年）を鋭意刊行中である。

他方、戦後期『日本外交文書』の早期刊行に対する要望に鑑み、平成十四年に「平和条約の締結に関する調査」を復刻するなど戦後期の編纂・刊行にも着手した。

本巻は、昭和十年の対欧米・国際関係外務省記録を編年方式により編纂・刊行するものであり、明治期以来通算一九四冊となった。

激動の時代といわれる昭和期を顧みるにあたって、本巻が正確な史実を提供し、外交問題の歴史的研究に資するとともに、現在の国際関係を考察する上でも貢献できれば幸いである。

平成十七年三月

外務省外交史料館長

例 言

一 第二次世界大戦終結に至るまでの昭和期（昭和二十―三十二年）を次の三期に分けて外交文書の編纂を行う。

昭和期Ⅰ 昭和二十六年（一九二七―一九三一）

昭和期Ⅱ 昭和六―三十二年（一九三一―一九三七）

昭和期Ⅲ 昭和十二―三十二年（一九三七―一九四五）

二 各期においては、対中国関係事項を第一部、対欧米・国際関係事項を第二部とし、それぞれ編纂・刊行する。

三 本巻は『日本外交文書』昭和期Ⅱ第二部第四巻として、昭和十年の対欧米・国際関係文書を収録した。

1 本巻に収録した文書は、基本的に外務省所蔵記録によった。

なお、収録文書の冒頭に※印のあるものは、外務省所蔵「松本記録」（松本忠雄元衆議院議員が、外務参与官および外務政務次官時代に、外務省記録のうち、特に政治、外交等の主要記録を筆写したもの）に依拠した。

2 収録文書は、原則として原文のままとした。

3 収録文書は、一連文書番号および件名を付し、各事項ごとに日付順に配列した。

4 収録文書中発電月日不明の電報は、着電の日付を記し、1月15日のようにカッコを付して区別した。

- 5 収録文書中右肩に付した(1)(2)(3)等の記号は、同一番号の電報が分割されたことを示す。なお、本巻への収録にあたっては、文章の区切りではなくとも分割された箇所をもつて改行した。
- 6 収録文書中来信については、公信番号の下方に接受日を明記し、接受日不明のものについては当該箇所その旨を記した。
- 7 発受信者名については、初出の場合のみ姓名を表示し、以後は姓のみにとどめた。また発受信者名に付す国名・地名は辞令に基づく在勤地とした。
- 8 本巻に採録するにあたって加えた注記は、(編注)として当該箇所に明記し、その文面は各文書の末尾に記載した。
- なお、事項全体に係る編注がある場合には、当該事項の事項目名に*印を付し、その文面は各事項の末尾に記載した。
- 9 原文書に欄外記入や付箋がある場合は(欄外記入)(付箋)として当該箇所に明記し、その文面は各文書の末尾に記載した。
- 10 収録文書中(省略)(ママ)等のカッコを付したルビは、収録にあたって記したものである。
- 11 押印については、公印と私印をそれぞれ(印)と(印)に区別して記した。
- 12 巻末に全収録文書の日付順索引を付した。

目次

一 外交政策一般	1
二 国際連盟における諸問題	37
三 欧州政況	91
1 一般問題	91
2 安全保障問題をめぐるソ連の動向	141
付 伊エ紛争をめぐる諸問題	170
四 諸外国との外交関係	237
1 日米外交関係	237
2 日英外交関係	263
3 日ソ外交関係(含 第七回コミンテルン大会)	281
4 その他諸国との外交関係	339
付 米国実業家極東視察問題	389

五 諸外国との通商問題	429
付 カナダに対する通商擁護法発動問題	583
六 雑 件	683

1 出淵大使の南方諸国派遣問題	683
2 東京市へのオリンピック招致問題	717

日本外交文書	昭和期Ⅱ第二部第四卷	日付索引
(昭和十年対欧米・国際関係)		

一 外交政策一般

1 昭和10年1月23日	在英国松平(恒雄)大使より 広田(弘毅)外務大臣宛(電報)
広田外務大臣の第六十七回議會演説に関する 英國各紙の報道振りについて	

付記一	一月二十二日付
二	「第六十七帝國議會ニ於ケル廣田外務大臣演説」 八月一日付重光(葵)外務次官 「國際關係ヨリ見たル日本ノ姿」

ロンドン	発
本 省	1月23日前着

特情倫敦第三號

廣田外相ノ演説ハ廿二日ノ「タイムス」紙及「マンチエスター・ガーデアン」紙ニハ全文、其ノ他ノ各紙ニハ大要ガ掲ゲラレ少カラズ一般ノ注意ヲ惹イタ、就中「タイムス」ハ「日本ノ外交政策」ト題シ之ニ對シテ社説ヲ掲ゲ次ノ如ク述ベテ居ル

廣田外相ノ演説ノ基調ニ對シテハ彼此云フベキ點殆ドナ
イ、其ノ日支提携論ト南京政府ニ對スル間接ノ祝辭トハ日
支關係ノ好轉ヲ促スデアラウ、要スルニ外相ノ新政策ハ極
東ニ於ケル政治的優越ヲ保持セントスル國民的意圖ヲ確言
シ一方南京政府ヲシテ有力ナル隣邦トノ提携ノ利ヲ覺ラシ
メ他方日本ノ支那領土ニ對スル侵略的野心ニ關スル支那其
ノ他ノ疑惑ヲ解カントスル所ニアル次ニ日蘇關係ニ對シ頗
ル和協的ナ措辭ハ兩國關係ノ緊張ガ消失セヌ迄モ緩和サレ
タコトヲ示シテ居ル、蘇聯ガ日本其ノ他ノ非共產主義國ト
ドレダケ眞面目ニ提携スル可能性ガアルカトイフ事ハ問題
ダガ經濟問題ト深キ考慮トハ兩國ヲシテ少クトモ當分ノ間
接近セシメズニハ置カヌデアラウ尙廣田外相ハ蘇滿國境非
防禦ヲ提議シテ居ルガ滿洲國及朝鮮ト日本トノ關係ハ沿海
州等ノ蘇聯ニ對スル關係ヨリモ更ニ重大ナノハ明カデアル
ガ蘇聯トシテハ極東ノ利益ヲ防衛スル力ヲ棄テル決心ハ容
易ニツカナイデアラウ、之ト同様支那ニ付テ何人モ日本ノ